

【目次】

1. 企画展「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」がオープン、7月6日！
2. 三輪建二氏を招いて報告会「祖父・三輪寿壮を語る」を開催、7月19日！
3. 没後20年、社会思想家・武藤光朗の3つのメッセージ！

1. 企画展「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」がオープン、7月6日！



友愛労働歴史館は7月6日（金）、企画展「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」（2018.7.6～12.21）をオープンしました。

企画展「松岡駒吉」では、松岡駒吉のメッセージを紹介しています。第一のメッセージは「産業人論」と「健全なる労働組合主義」。1928年の野田争議後、松岡駒吉は、当時の労働者は近代的産業人としての訓練に乏しいと「労働者を共同精神、独立、社会的責任、常識を有する産業人に訓練する場が労働組合」とする「産業人論」を提唱しました。また、「健全なる労働組合主義」とは、シドニー・ウェブ流の労働組合主義（経済主義・産業民主主義）に立つ一方、“不健全”な労働組合主義を批判したものです。それは外部の政党支配に屈し政治闘争に偏向した階級的組合主義と、企業の中に閉じこもり自らの労働諸条件に汲々とする企業内組合主義への批判でした。

第二のメッセージは現実主義労働運動であり、それは「団体協約締結運動」、「労働者教育」、「共済事業」への取り組みでした。団体協約締結運動は労働組合を認めさせ、①資本家の専制打破、②産業平和の確立をめざす取り組みでした。

また、「労働者教育」は、日本労働会館（現友愛会館）と全国11の分館による日本労働学校の開校、それによる①労働問題に関する学理や知識の探求、②これらの学理や知識が骨となった実際労働運動家の養成でした。そして「共済事業」は、(財)日本労働会館（松岡駒吉理事長）による労働金庫、失業保険事業、購買組合事業の展開でした。また、「医療の社会化」を期した友愛病院・第二友愛病院と、勤労者住宅の提供をめざしたアパート青雲荘・第二青雲荘の建設、さらに大井友愛館と外食券食堂・神楽坂食堂の経営などでした。

労働運動非合法の時代に労働組合の自主性を守り、過激な革命思想を拒絶して、労働者の現実的な利益を追究した松岡駒吉は「戦前のきわめて困難な時代にただ一筋に現実の労働者の利益を守るために、地道な努力をつづけてきた人物」（『松岡駒吉伝』）でした。

2. 三輪建二氏を招いて報告会「祖父・三輪寿壮を語る」を開催、7月19日！



友愛労働歴史館は7月19日（木）午後、歴史館研修室において第18回政治・社会運動史研究会を公開報告会の形で開催しました。テーマは「祖父・三輪寿壮について語る」、報告者は三輪寿壮の孫、三輪建二氏（星槎大学大学院教授）。報告会で三輪建二氏はレジュメとパワーポイントを活用しつつ、報告を行いました。詳細は略しますが、レジュメを掲載します。

○『祖父 三輪寿壮：大衆と歩んだ信念の政治家』（鳳書房 2017）刊行の背景

○三輪寿壮（1894-1956）の活動の時期区分

- I 帝大新人会と弁護士・社会運動家——1919～1931
- II 無産政党の政治家と社会民主主義——1926～1937
- III 国家との対峙——1937～1948
- IV 社会党の統一と民主社会主義——1948～1956

3. 没後 20 年、社会思想家・武藤光朗の 3 つのメッセージ！


社会思想家・武藤光朗の 3 つのメッセージ

武藤光朗 1917年～1998年



1. 武藤光朗は、中央大学で経済学を、評論家として活躍。戦時体制下の「社会思想家」として知られる。戦後には、1948年に、民主社会主義の旗手として活躍。民主社会主義の旗手として活躍。民主社会主義の旗手として活躍。

武藤光朗のメッセージ その1 「民主社会主義による自由の二重の反抗を呼び掛ける」



1. 武藤光朗は、民主社会主義の旗手として活躍。民主社会主義の旗手として活躍。民主社会主義の旗手として活躍。

武藤光朗のメッセージ その2 「難民がもたらす自由と人権のメッセージを生かす」



1. 武藤光朗は、自由と人権のメッセージを生かす。自由と人権のメッセージを生かす。自由と人権のメッセージを生かす。

武藤光朗のメッセージ その3 「自由と平等を統合する「友愛」、友愛民主主義」



1. 武藤光朗は、友愛民主主義の旗手として活躍。友愛民主主義の旗手として活躍。友愛民主主義の旗手として活躍。

7月25日は、社会思想家、民社研（現政策研究フォーラム）元議長の武藤光朗（1917.3.17～1998.7.25）氏が死去されてから20年となります。武藤氏は 國學院大學、中央大学などで教鞭をとり、評論家としても活躍。晩年は自らを「社会思想家」と称していました。

武藤光朗氏は1966年、民社研議長に就任し、民主社会主義陣営の理論的リーダーの一人として活躍しました。この頃、武藤光朗氏は「民主社会主義による自由の二重の反抗」を呼び掛け、①自由放任の資本主義経済がもたらす非人間性への抵抗、②共産主義・全体主義がもたらす非人間性への抵抗を訴え、当時の民主的労働運動のリーダーに大きな影響を与えました。

また、武藤氏は北ベトナムによる南ベトナムの共産化により、1975年頃から多くの難民がボートピープルとして国外に逃れた時、彼ら難民がもたらす「自由と人権のメッセージを生かしたい」と、インドシナ難民連帯委員会（現アジア連帯委員会 CSA）の活動に取り組みました。

そして武藤光朗氏は1991年のソ連・東欧共産主義システムの崩壊後、新たに「自由」と「平等」を媒介・統合する基本理念の「友愛」に注目し、「友愛民主主義」を提唱しています。

武藤光朗氏の3つのメッセージは、①民主社会主義による自由の二重の反抗、②インドシナ難民がもたらす自由と人権、③「友愛民主主義」、です。

義」、です。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

唯一館から124年、友愛会から106年